

## 宮崎県健康づくり協会における超音波検診の実績について

松下 睦美 春口 光政 坂梨 朱美 清 幸代 谷口 季子 黒田 りい子  
 斉藤 賀寿子 鮫島 佑子 伊福 浩水 湯田 敏行 (財団法人宮崎県健康づくり協会)

### 【はじめに】

当協会では、平成 12 年から腹部超音波検診を、平成 18 年度からは乳がん検診でマンモグラフィと併用する形で乳房超音波検診を実施している。今回、腹部超音波検診は平成 19 年度のみ、乳房超音波検診は、平成 18、19 年度の 2 年間の実績について報告する。

### 腹部超音波検診

#### 【対象】

対象者は市町村住民および事業場職員で 40 歳以上および希望者である。平成 19 年度の受診者数は、711 名(男性 436 名、女性 275 名)であった。

#### 【検査方法】

超音波診断装置は TOSHIBA Nemio SSA-550A、探触子はコンパックス型を使用した。

対象臓器は、上腹部の肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓を撮影し、MO (Magneto-Optical) ディスクおよびフィルムに記録した画像を協会専門医師が読影、判定する。判定区分は、人間ドック成績判定及び事後指導に関するガイドラインに基づいた 6 区分である。

#### 【結果】

受診者数 711 名の中で、判定区分は異常なし 283 名(39.8%)、差し支えなし 77 名(10.8%)、要生活習慣改善 97 名(13.6%)、要経過観察 226 名(31.8%)、要精密検査 26 名(3.7%)、観察不良 2 名(0.3%)であった。(図 1)

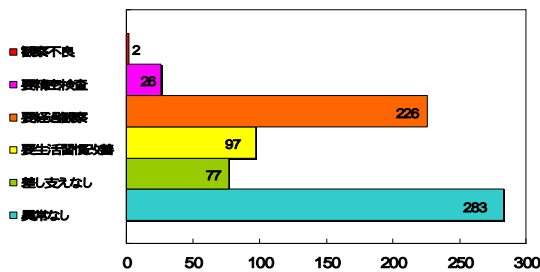


図 1. 腹部超音波検査判定結果

表 1. 主な超音波所見

(超音波所見)	(N = 711)	%
脂肪肝	147	{ 20.7 }
肝嚢胞	86	{ 12.1 }
肝血管腫	12	{ 1.7 }
胆嚢ポリープ	70	{ 10.0 }
胆嚢結石	21	{ 3.0 }
胆嚢壁肥厚	7	{ 1.0 }
腎嚢胞	51	{ 7.2 }
腎結石	11	{ 1.6 }
腎盂拡張	8	{ 1.1 }
膵管拡張	3	{ 0.4 }

平成 19 年度の主な超音波所見は、脂肪肝(20.7%)、肝嚢胞(12.1%)、胆嚢ポリープ(10.0%)、腎嚢胞(7.2%)であった。(表 1) 脂肪肝は男性 26.8%、女性 10.9%にみられ、男性は 40 歳代で高率を示し、女性は年齢が上がるにつれ頻度も上がる傾向がみられた。(図 2)

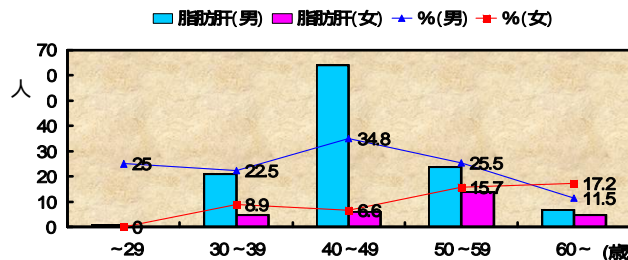


図 2. 脂肪肝の頻度(年齢別、性別)

## 乳房超音波検診

### 【対象】

対象者は市町村住民および事業場職員で40歳以上もしくは希望者の女性である。平成18年度～19年度の乳がん検診受診者数は、4,956名で、マンモグラフィ検査（以下MMG）と超音波検査（以下US）の併用検診は、2,465名(49.7%)、MMG単独検診は、2,491名(50.3%)であった。

### 【検査方法】

超音波診断装置はTOSHIBA Nemio SSA-550A、探触子は8～14MHz電子リニア型を使用した。

左右乳房全域を縦走査、横走査でくまなく観察し、画像はMOディस्कおよびフィルムに記録する。読影は協会が設置するMMG読影委員会で二重読影を行い、カテゴリ-3以上を要精密とし、医療機関に紹介している。判定基準は、乳房超音波診断ガイドラインにおける要精密基準に準拠する。

表2. 乳がん検診実績（H18年度～H19年度）

	受診者数	要精検者数	要精検率	乳がん確定者	乳がん発見率
	4,956	495	10.0%	15	0.30%
MMG + US 併用	2,465	341	13.8%	8	0.32%
MMG単独	2,491	154	6.2%	7	0.28%

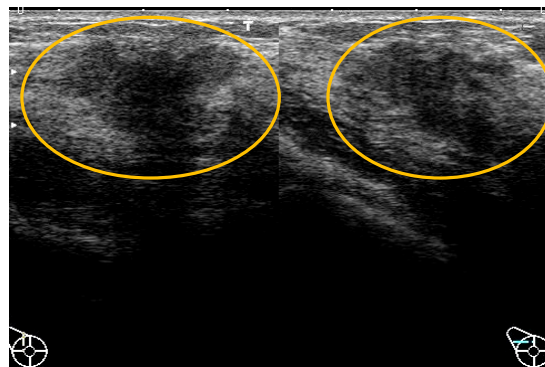


図3. 33歳 初回受診 右乳がん(硬癌)

### 【結果】

要精密検者は495名、要精密検率は10.0%であった。（表2）

追跡調査は、要精密検者495名を対象に、精密結果の返信があった455例（精密検受診率91.9%）について行った。乳がん確定者は15名（発見年齢は33歳～74歳で30歳代1名、40歳代3名、50歳代4名、60歳代5名、70歳代2名）、がん発見率は0.30%であった。がん確定者15名中11名(73.3%)が早期がん（stage0～stage1）であった。

MMGとUS併用検診でがんが発見された8症例のうち3症例は、MMGでは当協会での検診および精密検査医療機関での精密検時ともに所見がみられなかった。この3症例の内1症例の画像を供覧する。（図3）

### 【まとめ】

腹部超音波検診の意義は、腫瘍性病変および生活習慣病等の早期発見である。検診では特に脂肪肝の頻度が高く、経年受診者の中には脂肪肝の改善が図られておらず、検診後の積極的保健指導等による生活習慣改善の啓発が必要である。

乳がん検診は、2年間に15名の乳がん患者（内11名は早期がん）を発見できた。MMGとUS併用検診で発見された8症例のうち3症例は、MMGでは検診・精密検時ともに所見がなくUSのみで要精密であった。MMGとUS併用の乳がん検診は乳がん発見に大きく寄与するものと思われる。

参考文献：JABTS 乳房超音波診断ガイドライン 改訂第2版, 2008. 南江堂.